

平成28年度第2回 札幌市国民健康保険運営協議会の概要

1 日 時

平成29年(2017年)2月13日(月曜日)午後6時00分～午後8時07分

2 場 所

札幌市役所 地下1階 3号会議室

3 出 席 者

(1) 運営協議会委員

13名(別添のとおり)

(2) 事務局

保険医療部長、保険企画課長、保険事業担当課長、国保健康推進担当課長他

4 審議事項

議案第1号 平成28年度国民健康保険会計補正予算について

ア 説明の趣旨

- ・療養給付費等負担金については、当年度に概算で交付され、翌年度に精算するという仕組みになっている。平成27年度分について精算の結果、超過交付となった分を返還する必要があるものである。

イ 協議結果

- ・了承された。

議案第2号 平成29年度国民健康保険会計予算について

ア 説明の趣旨

- ・予算総額は、2,292億円を計上。一人当たりの医療費の増加等を見込み、平成28年度予算に比べ0.3%増。
- ・制度改正として、保険料軽減判定基準の見直しがある。
- ・医療費・給付費については、被保険者数は減少傾向にあるが、高齢化・医療の高度化などの影響による一人当たり医療費の増加に伴い増となる見込み。
- ・国保財政の健全化に向け、引き続き、医療費適正化の推進、収納対策の推進に取り組んでいく。
- ・一般会計繰入金は、被保険者数の減等に伴い保険料の軽減対象となる被保険者数も減が見込まれることから、平成28年度予算に比べ8億円減の227億を見込む。

イ 主な質疑

Q. 平成29年度予算の一人当たり医療費が平成28年度に比べ増えている理由は？

A. 薬剤費の影響も受けていると考えているが、一番の要因は前期高齢者の増加と考えている。

Q. 特定健診受診率と医療費の相関関係は？

A. 受診率が低いから医療費が高い等の相関関係はそれほどないと考えている。

Q. コンビニの収納代行についての費用はどのくらいかかるのか？

A. 現時点の見込みでは、年間40万件で3,000万円程度を想定している。

Q. 特定健診の40歳無料化はどのような狙いで行うのか？

A. 40歳が初めて健診対象となる年齢であることから、そこから健診の習慣をつけていただくというのが大きな狙いである。

ウ 協議結果

- ・了承された。

5 報告事項

報告第1号 国保都道府県単位化について

- ・納付金の仮算定結果は、道内市町村における納付金の算定方法を議論するためのたたき台であり、今後、市町村の議論を経て7月に算定方法が決まる予定。
- ・北海道で策定中である北海道国民健康保険運営方針は、3月にパブリックコメントを実施し、北海道の運営協議会の議論を経て7月に完成予定。
- ・同運営方針においては、道内における国保事務の効率化等のため、被保険者証と高齢受給者証を一体化し統一様式にすること、支給額が違った葬祭費を3万円に統一するなどの方針が示されており、また、決算補填等目的の法定外繰入の計画的な削減についても記載されている。

(意見) 納付金は医療費水準を反映することになるが、都市部と町村(離島)では医療の供給体制が違う。同等の医療が提供できるのかという観点も今後必要ではないかと考える。

報告第2号 平成27年度保険基盤安定負担金の返還について

- ・申請時の算定誤りにより過大受領が発生したことが判明したため、国及び北海道に返還する。

報告第3号 高額療養費制度の見直しについて

- ・第1段階(29年8月から30年7月まで)は現行の所得区分の枠組みを維持したまま、限度額を引き上げ。一般区分の世帯分の限度額については、多数回該当を設定。
- ・第2段階(30年8月から)は現役並み区分の限度額を所得に応じて細分化。一般区分については外来上限額を引き上げるほか、1年間の外来の自己負担額の合計額に年間14.4万円の上限を設ける。